

1人1台の情報端末を活用した新たな学び

GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想とは

1人1台の端末と、通信ネットワークを一体的に整備することで、子どもたち一人ひとりの資質・能力をより効果的に育成できる教育ICT環境の実現。

新型コロナウイルス感染症により、オンライン学習など家庭で情報端末を利用した学習の重要性が高まりました。

今後、学びの変化を踏まえつつ、ICTを活用した新たな学びを、より一層推し進めていきます。

区立小中学校におけるICT機器の整備

1 タブレット型情報端末の配備

令和2年11月から順次、児童・生徒1人1台環境に向けてタブレット型情報端末を配備します。

- 新規端末約4万3千台の配備
- 第3回区議会定例会に契約議案を提案



2 校内通信ネットワークの整備

区立小中学校90校の校内通信ネットワークを整備します。

- インターネットに常時接続するために必要となるネットワーク機器（無線アクセスポイント）を全教室に整備します。
- 遅延なく動画教材等を視聴可能なインターネット接続環境を実現するため、高速通信可能な通信機器への入れ替えを実施します。

一斉学習の改善

音声や動画、3Dなどによる疑似的な体験

学習データを活用

個別学習の充実

情報端末による調査の実施

花のなまえ

①苦手分野や得意分野に応じた学習課題の提供
②文字入力・検索等の習熟

家庭と連携した学習の推進

デジタル教材・ドリルの活用

動画にアクセス、課題提出

オンライン会議システムの活用

協働学習の充実

学校内外の人とつながる学習の実施

学級全員が同時アクセスし、クラスメートと共に自分の考えを発表したり、まとめたりする協働学習の実施

探究的な学習の推進

デジタル教材を活用して自分の興味・関心に応じて課題を解決する学習の実施

インターネット環境を生かした探究的な学びの実現

プログラミング教育の実施

基盤となる教育クラウドの活用

「見せる・魅せる」授業作り

実際に体験をすることが難しい内容を音声や動画、3Dなどにより疑似的に体験する学習を行います。

先生の声

「教師が見せたい時に見せたい物を子どもに見せられるようになります。言葉で説明するより分かりやすく伝えることができるので、効率よく魅力的な授業を進められます。」



子ども一人ひとりに合わせた学び

AIなどを使って、一人ひとりの学習の理解度に合わせて、苦手分野や得意分野に応じた学習課題を提供します。

先生の声

「計算が得意な子はどんどん先の問題にチャレンジし、苦手な子は前の学年まで遡ってつまづいている問題を解き直すことができるようになります。自分のペースで効率的に学習を進められるようになります。」



双方向型授業支援アプリを使った対話的な学び

先生と子ども、子ども同士がオンラインでつながりコミュニケーションがとれるアプリを使って学びを深めます。

先生の声

「授業支援アプリを使うことで、みんなの前で話すのは苦手だけど、しっかりと考えている子どもの意見をみんなで共有することができるようになります。今まで以上に意見の交換がしやすくなり、自分の考えを広げたり深めたりできるようになります。」



デジタル教材を活用して自分で深める学び

教科書に掲載されている2次元コードからより詳しい内容や、関連分野の情報にアクセスすることができます。子どもたちが自分で多様なデジタル教材にアクセスして学びを深められるようになります。

先生の声

「子どもが自分の端末をいつでも使えるようになれば、自分で調べたいと思った時にデジタル教材などにアクセスして、興味をもったことをより詳しく学べるようになります。学校だけでなく、家庭でも活用して「深い学び」を実現してほしいと思います。」



オンラインでつなげる家庭での学び

先生がコンピューターで課題を配信して、子どもたちが家庭に持ち帰った端末で提出できるようにします。また、理由があって登校できない子どもとオンラインでつながり家庭学習を支援します。

先生の声

「どの学校にもさまざまな理由で登校できない子どもがいます。双方向のやりとりができるアプリを使うことで、子どもの様子を見ながらより手厚い支援ができるようになります。」

